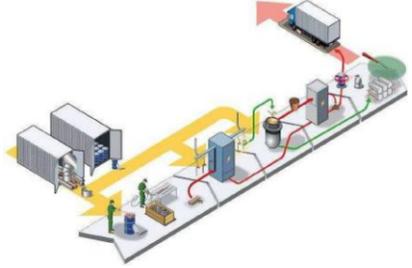


分野	廃棄物処理処分																					
タイトル	海外廃棄物処理施設での放射性廃棄物受入基準																					
前書き	近い将来、国内にも建設が想定される廃棄物処理施設に関して、先行する海外での処理、処分施設側における廃棄物受入基準 (Waste Acceptance Criteria)を学び、国内施設向けの要件を検討する。																					
調査文献	文献1. EnergySolutions Clive, Utah Bulk Waste Disposal and Treatment Facilities Waste Acceptance Criteria	文献2. Cyclife METAL RECYCLING FACILITY -WASTE ACCEPTANCE CRITERIA																				
調査文献の概要	<p>米国ユタ州でエネルギー・ソリューションズ社が運営している、放射性廃棄物クラスA(国内L3相当)を受入、処分するCliveクライブ処分場における廃棄物受け入れ基準(以下、WAC)について整理されている。</p> <p>処分場の能力と要件に関する情報を、廃棄物発生者とその請負業者に提供するために、この文書作成しており、下記廃棄物の受入れに関する基準が纏められている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスA低レベル放射性廃棄物(LLRW) ・NORM/NARM(天然起源) ・クラスA混合LLRW(放射性物質と有害物質の混合物) ・副生成物材料 ・PCB 放射性 ・その他の様々な形態および種類の放射性廃棄物 	<p>英国でCyclife社(EDFの子会社)が運営している金属リサイクル処理施設での以下のWACについて整理されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料特性(形状・材質・厚さ、表面状態等) ・処理不可物(非金属材料、樹脂、自由水のあるもの、爆発または自己発火を起こす可能性のある材料、有毒物質) ・放射線特性(汚染密度・線量率・放射能濃度・ウラン濃度・発生元) <p>SwedenのCyclife社は溶融設備を備え、溶湯検認による金属リサイクルを行っている。</p> 																				
調査文献の目次	<p>第1章 はじめに</p> <p>第2章 サイトと施設の説明</p> <p>第3章 廃棄物基準</p> <p>第4章 廃棄物受入プロセス</p> <p>第5章 出荷のスケジュールおよび管理表</p> <p>第6章 梱包および輸送</p>	<p>第1章 序論</p> <p>第2章 MRF での材料の受け入れ</p> <p>第3章 通常の運転パラメータ</p> <p>第4章 処理能力モデル</p> <p>第5章 2次廃棄物</p> <p>第6章 非適合廃棄物および受入不可材料の返送</p> <p>第7章 輸送と引渡し</p>																				
研究会の考察	<p>日本における放射性廃棄物処理設備として、比較的低線量の放射性廃棄物を除染・減容して、クリアランス又はL3とする設備を想定し、要件を検討する。</p> <p>Clive処分場、MRF 処理施設の受入基準をもとに、日本でも同様に必要となると想定したもの(A)の受入基準(案)としては、下記項目が抽出された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・液体廃棄物の受入不可 ・爆発物、自己発火性物質の受入不可 ・有毒なガス、蒸気を含むものの受入不可 <p>また、以下の(B)～(D)のものについては、基準の分類、具体例を下表の通り整理するとともに、検討の方向性、課題を整理した。</p> <table border="1" data-bbox="426 1970 1486 2347"> <thead> <tr> <th>基準の分類</th> <th colspan="2">基準の具体例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">しきい値の再設定が必要としたもの(B)</td> <td>①【処理方法】に関わる基準</td> <td>水分量、水銀濃度</td> </tr> <tr> <td>②【設備の安全設計】に関わる基準</td> <td>線量率、放射能濃度、表面汚染密度等</td> </tr> <tr> <td>③【処理物の処分】に関わる基準</td> <td>線量率、放射能濃度、表面汚染密度等</td> </tr> <tr> <td>今後の法整備の結果によるもの(C)</td> <td>③【処理物の処分】に関わる基準</td> <td>発生元、放射能濃度、対象核種</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">処理設備の設計によるもの(D)</td> <td>①【処理方法】に関わる基準</td> <td>形状、重量、材質等</td> </tr> <tr> <td>②【設備の安全設計】に関わる基準</td> <td>材料、特別管理廃棄物</td> </tr> <tr> <td>③【処理物の処分】に関わる基準</td> <td>特別管理廃棄物</td> </tr> </tbody> </table> <p>以上の様に、国内施設運用に向けては、許認可に加えて、具体的な廃棄物受入基準の制定が必要である。</p>		基準の分類	基準の具体例		しきい値の再設定が必要としたもの(B)	①【処理方法】に関わる基準	水分量、水銀濃度	②【設備の安全設計】に関わる基準	線量率、放射能濃度、表面汚染密度等	③【処理物の処分】に関わる基準	線量率、放射能濃度、表面汚染密度等	今後の法整備の結果によるもの(C)	③【処理物の処分】に関わる基準	発生元、放射能濃度、対象核種	処理設備の設計によるもの(D)	①【処理方法】に関わる基準	形状、重量、材質等	②【設備の安全設計】に関わる基準	材料、特別管理廃棄物	③【処理物の処分】に関わる基準	特別管理廃棄物
基準の分類	基準の具体例																					
しきい値の再設定が必要としたもの(B)	①【処理方法】に関わる基準	水分量、水銀濃度																				
	②【設備の安全設計】に関わる基準	線量率、放射能濃度、表面汚染密度等																				
	③【処理物の処分】に関わる基準	線量率、放射能濃度、表面汚染密度等																				
今後の法整備の結果によるもの(C)	③【処理物の処分】に関わる基準	発生元、放射能濃度、対象核種																				
処理設備の設計によるもの(D)	①【処理方法】に関わる基準	形状、重量、材質等																				
	②【設備の安全設計】に関わる基準	材料、特別管理廃棄物																				
	③【処理物の処分】に関わる基準	特別管理廃棄物																				